

シラバス

2019 年度

ファインアート科版画専攻2年

本物にふれる 本当の力をつける



学校法人高澤学園 美術造形専門学校

創形美術学校

ファインアート科 / ビジュアルデザイン科 / 研究科

履修ガイド

1 . カリキュラム

- (1) 授業について単位を修得するためには2/3以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。
- (2) 原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、欠席扱いとなる場合がある。
- (3) 交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を提出すること。
- (4) 各授業のシラバスには授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法及び教員・講師の出校日も記載。授業の1週間前にはアトリエにシラバスを掲示。また学校ホームページでも確認することができる。
- (5) 指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の日も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかり守ること。
- (6) 気象庁より23区に災害警報（暴風警報・大雪警報等）が発令された場合は原則休校となる。その場合は、学校から休校のメール連絡を行う。
- (7) 日曜、祝日において基本的に学校は休日（付帯教育は除く）となるが、場合により日曜、祝日を授業日とすることがある。新年度ガイダンス時配布のスケジュールに記載されるのでよく確認をすること。
- (8) 日曜において授業日以外の目的でアトリエを学生に開放して制作を行うことができる場合がある。ただしこの場合、使用できるアトリエは学校の指定する教室のみとなる。開放日においては新年度ガイダンス時配布のスケジュールに記載されるのでよく確認をすること。

2 . 単位の認定

- (1) 実技=課題の採点により合格と認定のあった学生には、所定の単位を与える。
学科=試験、課題(レポート含む)等の採点により合格と認定のあった学生には、所定の単位を与える。
- (2) 単位計算の基準=各授業科目（実技、学科共）に対する単位は週90分半期17週相当（25.5時間）の授業をもって1単位とする。

3 . 進級の要件

本校の学生が進級するには、1年間の修得単位が31～33単位以上なければならない。

4 . 卒業の要件

本校の学生が卒業するには3年以上在学し、かつ所定の96単位以上修得しなければならない。

5 . 履修に関する注意

- (1) 学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。
- (2) 授業途中からの受講は原則として認めない。
- (3) 受講した科目は、原則として変更することはできない。
- (4) 選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行う事がある。

6 . 採点について

- (1) 科目の採点は、授業終了時に行なわれる。
- (2) 必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行なうことがある。
- (3) 採点の方法は課題(レポート含む)の提出による採点とする。
- (4) 受講した科目は課題(レポート含む)を提出して採点を受けなければならない。
- (5) 受講した科目の出席日数が、3分の2以上に満たないものは、原則として採点を受けることができない。
- (6) 授業料等未納者は原則として科目を受講する資格がない。

7 . 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

8 . 採点基準

- (1) 課題(レポート含む)の採点は、60～100を合格とし、それ以下を不可とする。
- (2) 配点区分は次による。

採点	評価	
100～95	AA	
94～80	A	
79～70	B	合格
69～60	C	
59～ 0	D	不可
保留	-	仮処置

(3) 採点保留(仮処置)による扱い

※学科において課題(レポート含む)採点の結果、点数が59点以下の場合、不可となり原則として次年度以降において再履修となる。

※授業を担当する講師による採点が保留となった場合、追課題(レポート含む)は成績会議により専任の判断に委ねられる。

※修得単位数が1年次、2年次それぞれで15単位以下、または1・2年次を通じて合計32単位以下は留年となる。

9 . 学科再履修

採点の結果、不可となった者は次年度以降において原則としてその学科目を再履修しなければならない。ただし、在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。

10 . 仮進級及び卒業・修了資格判定及び卒業・修了判定

- (1) 前期授業と後期授業において学科・実技の履修状況の確認を学期末に学生・保護者に郵送する。未提出課題のある学生はすみやかに学校の指示に従い、課題(レポート含む)の提出を行わなければならない。
- (2) 卒業・修了年次においては11月に卒業資格判定を行い、判定結果の掲示を行う。その際に出席、学科、実技などを考慮した結果、卒業・修了資格なしと判定のあった者は卒業・修了制作を着手する事ができず、卒業および修了不可となる。判断保留の学生については、3月において卒業・修了判定を行い、単位の修得状況によっては卒業・修了制作の提出があっても卒業・修了不可となり、留年もしくは卒業・修了延期となる場合がある。
- (3) 学費において未納がある場合、卒業・修了判定において卒業・修了不可もしくは除籍となることがある。

11 . 授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業、学外活動を通じて認定

- (1) 所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得(単位数:受講授業単位数に準ずる)
※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。
例:「ポートフォリオ」など研究科授業を受講することにより単位取得。

- (2) インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得（単位数：1単位）
※2年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行った場合に認める。
「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。
- (3) ボランティア活動などによる単位修得（単位数：活動期間に準ずる）
※単位認定は原則、実質1日8時間のボランティア活動を5日行う事で1単位とする。事前に専攻担当専任教員による面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。
例：認定されるボランティア活動「豊島区フラッグ」「アート公衆トイレ壁画」「池ポス展」etc
- (4) 学外コンペに出品することによる単位修得（単位数：1単位）
※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。
ただし授業の一環として行われた学外コンペの出品は認められない。採点は出品のみC。入選するとAorB。受賞するとAAと同等とみなし採点。
例：「JAGDA学生グランプリ」「アワガミ国際ミニプリント展」「ICAF」「GUタペストリーコンペ」etc

特別支援授業を通じて認定

- (1) 特別支援授業を受講することによる単位修得（単位数：各1単位）
※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春季休暇、夏期休暇に実技授業・学科授業が開設。授業前に事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。
受講料：1講座15,000円 / 採点方法：提出作品、試験、レポート等によって採点。

12 . 参考作品について

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、すみやかに返却を行なう。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンスなどで使用する事がある。また、学校案内用の印刷物や広報（WebやSNS）および学校外など授業以外での目的で作品を使用する事がある。

ファインアート科版画専攻

シラバス

前期授業名：「版画概論」 担当講師：天野純治

授業期間：2019/5/9(木)-2019/7/18(木)

授業時間：10：40-12：10

学習目標：作品を制作する時、個々の感性は既に備わった最も大事な DNA です。制作を通じて研ぎ澄ます必要があります。現代の美術の中でオリジナリティーの強い作品を制作する為、この授業ではその表現を支える骨格となる思考（コンセプト）にも焦点をあてて行きます。

授業内容：現代の美術は多様化しています。版画。版による表現も例外ではありません。授業では様々な作品の鑑賞（参考作品など）から、ポップアート以降令和になろうとする今に至るまでの現代美術史に焦点をあてそれぞれの作品が持つコンセプトを考えて行きます。

選択学科(前期・後期)授業名：「フランス語 II」 担当講師：内田雅之

授業期間：2019/4/15(月)-2020/2/17(月)

授業時間：10：40-12：10

学習目標：フランス語1の修了者を対象として、一年次に習得した基礎力を基盤としながら会話表現・文法の両面での知識を広げていきます。また、少しずつ書かれたものを読む練習も行います。

授業内容：前期は、まず問題練習などを通じて、書くという別観点を少し意識しながら昨年の復習を行います。その後複合過去、単純未来へと文法面で次のステップへと移っていきます。後期は、フランス旅行の機会を想定して、オリジナルのフランス旅行のしおりを作成していく課題が課され、校内展示の機会を設けます。

選択授業名：「特別講座」 担当講師：ゲスト講師

授業期間：2019/6/15(土)、9/10(火)、9/14(土)、11/9(土)、12/7(土)

授業時間：13：00-16：00

学習目標／授業内容：現代社会においてクリエイターの役割は益々重要性を増し、その領域は日々拡大しつつあります。講座では創作における考え方、発想法をリアルタイムな講義を通して学んでいきます。

就職セミナー：就職活動から入社後の心構えやクリエイターとしての取り組みなどについてセミナー講座を開催。

前期実技授業名：「現代美術演習A」 担当講師：山本 晶

授業期間：毎週 2019/4/9(火)-2019/6/18(火)

授業時間：9：00-12：10

学習目標：より一層多様化する美術表現に対する理解力を身につける。

授業内容：発想から表現へ、どのようなアプローチをすればいいのかを実践を通じて探ります。

美術の様々な表現方法を分析しテーマに対してどのように実践をするか演習します。

前期実技授業名：「絵画技法実習」 担当講師：安藤孝浩、工藤礼二郎

授業期間：毎週 2019/4/9(火)-2019/6/4(火)、2019/6/21(金)-2019/9/20(金)

授業時間：13：00-16：00

学習目標：ルネサンスから近代に至るまでの西洋絵画の主な油彩技法を習得することを目的とする。

授業内容：北方ルネサンスから 20 世紀のウィーン幻想派に至るまで、様々な絵画表現に用いられたテンペラと油彩による混合技法、及びルーベンスを中心としたバロック期の油彩によるグリザイユを中心に学ぶ。

前期実技授業名：「リトグラフ A」 担当講師：中村真理

授業期間：2019/4/10(水)-2019/5/9(木)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

授業内容：リトグラフの特性を利用して個々の表現したいテーマに基づき制作する。4 版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングのように手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

前期実技授業名：「銅版画 2」 担当講師：山本剛史

授業期間：2019/5/10(金)-2019/6/5(水)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：銅版画技法に触れ、この面白さを体感し、今後の制作プロセスの幅を広げて頂ければと思います。銅版画には色々な技法がありますが、その中のいくつかを組み合わせ、自身の作品を制作してもらいます。版画表現は『写し取る』ことによって初めて成立する独特な手法です。どの工程においても丁寧に取り組むことが、作品に驚くほど影響します。この体験によって制作態度における誠意の大切さと『写し取った』自らの作品に直面する新鮮な驚きを学習して頂きたいです。

授業内容：エッチング、アクアチント、ドライポイント、リフトグラウンド、ソフトグラウンドエッチング、など銅版画の代表的な技法を紹介します。製版と刷り作業を実演した後、2つ以上の技法を選択し作品制作へと進んでもらいます。『提出用作品』は2枚を予定しています。支持体となる版画用紙はハーネミューレを使用。画面サイズ 200×280mm。紙サイズ 300×380mm。刷り上げた作品にはサインとエディションを入れて提出していただきます。最後は講評会にて、実際にやってみた感想とそれぞれの作品について皆で話し合い授業を終了とします。

前期実技授業名：「シルクスクリーン2」 担当講師：東樋口徹

授業期間：2019/6/6(木)-2019/6/28(金)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し環境にやさしい水性インクを使用し刷紙に刷ります。PCを使用した4色分解による4版4色の作品（18×25cm位）を1点、5版以上を使った作品（25×40cm位）を1点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。

授業内容：基本的な水性インクで紙に刷る4版4色を使った作品（A4／21cm×29.7cm）を一点（紙4枚程度）、5版以上を使った作品（A3／29.7cm×42cm）を一点（紙8枚程度）制作。

前期選択実技授業名：「現代美術演習B」 担当講師：黒瀬陽平

授業期間：毎週 2019/6/25(火)-2019/9/24(火)

授業時間：9：00-12：10

学習目標：現代の視覚文化は映像を媒体としたコンテンツを抜きにして成立しません。サブカルチャーからハイカルチャーまで、映像というメディアがどのような役割を果たし、どのように展開したのか。本講義では主に戦後日本を中心としてアニメや映画、ゲームなどの映像コンテンツが表現してきたものを読み解いていきます。

授業内容：戦後日本の映像コンテンツについて、レクチャーと作品鑑賞を中心に進めます。途中、講義内容に関係するワークショップも何度かおこなう予定です。

前期実技授業名：「ドローイングA」 担当講師：鈴木吐志哉

授業期間：2019/7/1(月)-2019/7/19(金)

授業時間：9：00-16：00

学習目標： 版画制作から離れ、ドローイング制作に集中する時間とする。版画の技法に制約されることなく、様々な支持体や素材を試す事で多角的に各自の表現を研究する。

授業内容： サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。

後期実技授業名：「木版画」 担当講師：鈴木吐志哉

授業期間：2019/9/3(火)-2019/9/30(月)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：「専攻別ワークショップ（版画専攻）」で体験した水性木版画1版単色をこの授業ではさらに多色木版画に展開していくことで、木版画技法の充実と色彩について研究します。水性多色木版画の技法は浮世絵に見られるように日本独自の進化を遂げた技法でもあります。古来からの技法と現代の技法を駆使して自由な発想で制作してもらいます。

授業内容： 300×225mm（4～5版多色）、水性木版画の作品の制作および基本技術と技法の展開。

後期実技授業名：「現代美術演習C」 担当講師：宇治野宗輝

授業期間：毎週 2019/10/1(火)-2019/11/12(火)

授業時間：9：00-12：10

学習目標：今までやったことのないことをやる。

授業内容：絵画以外の形式で作品を制作。詳細は初日にディスカッションをして決定。

後期実技授業名：「リトグラフB」 担当講師：中村真理

授業期間：2019/10/1(火)-2019/10/23(水)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

授業内容：リトグラフの特性を利用して個々の表現したいテーマに基づき制作する。4版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングのように手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。多色刷りの授業なので、1人3版以上使用し作品をつくる。

後期実技授業名：「石版画」 担当講師：板津 悟

授業期間： 2019/10/24(木)-2019/11/13(水)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：講義、実習を通して石版画の歴史や技術を学び、平版の仕組みを体感しながら石版石の特徴を活かした制作を行う。

授業内容：石版石を版材として使える様な状態にするまでの作業工程も含めて、素材との対話を大切にしながら個々の表現を考える。作品はモノトーンとし、一つ一つの行程を把握する。

後期実技授業名：「先端メディア(先端メディア アート&デザイン)」

担当講師：八幡純和、岡山拓史

授業期間：毎週 2019/11/12(火)-2019/12/10(火)

毎週 2020/1/14(火)-2020/2/4(火)

授業時間：13：00-16：00

学習目標：昨今のメディアやサービスの特徴、影響を実技制作を通して学び。そして今後より多様化する社会の中で柔軟に活動できるよう応用力や表現力を高めてもらうことを目指す。

授業内容：WEBやSNSなどメディアのことだけでなく、ヴァーチャルリアリティやインタラクティブアートなど様々な現代のテクノロジーやサービスの仕組みを紹介しつつ、個別にコミュニケーションを取りながら実技制作をする。

後期実技授業名：「木口木版画」 担当講師：栗田政裕

授業期間：2019/11/14(木)-2019/11/20(水)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：木口木版画は、18世紀頃ヨーロッパで完成された木版画の技法である。柘植、椿等の堅牢な木材の木口の面を、ビュランという彫刻刀で彫り進んでいく木口木版画の技法は、白と黒との精緻な表現に適している。本実習では、版画の技法の中でもとりわけ単純で明快な、彫って摺るという行為に重点を置く。原初的な彫版の作業の中で制作者は自分自身の素直な表象と出会う実習である。

授業内容：テーマ=自由制作

後期実技授業名：「銅版直刻」 担当講師：長島 充

授業期間：2019/11/21(木)-2019/11/30(土)

授業時間：9：00-16：00

学習目標／授業内容：銅版画の中で、腐食を用いず直接的に版を彫っていくドライポイント技法を中心とした直刻法によりモノクローム銅版画を1点制作する。課題のテーマは「人間像」。銅の板を直接彫っていく緊張感を体験してもらう。

後期実技授業名：「ドローイング B」 担当講師：鈴木吐志哉

授業期間：2019/12/2(木)-2019/12/13(金)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：「ドローイング A」同様に自由なドローイング制作に集中する時間とする。ただし、今回は各自の版表現へどのように展開できるかも同時に検証する。

授業内容：サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。

後期実技授業名：「連作版画 A、B・インターンシップ」

担当講師：鈴木吐志哉、東樋口徹、中村真理、山本剛史

授業期間：2020/1/8(水)-2020/2/29(土)

授業時間：9：00-16：00

学習目標：各自の表現に適した版種を選択し、版材料の手配も含め、版画作品を2点制作することで技法の修得、将来の作家活動につながる個々の表現法・テーマを考えていきます。

授業内容：各自制作可能な大きさ、内容に挑戦してもらいます。2点制作。

就業体験(インターンシップ)をし、それをレポートにまとめて提出。(希望選択制)

／就業につながる課題制

学校法人高澤学園

創形美術学校

〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2

TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982

URL <https://www.sokei.ac.jp/>

E-mail: sokei@sokei.ac.jp